

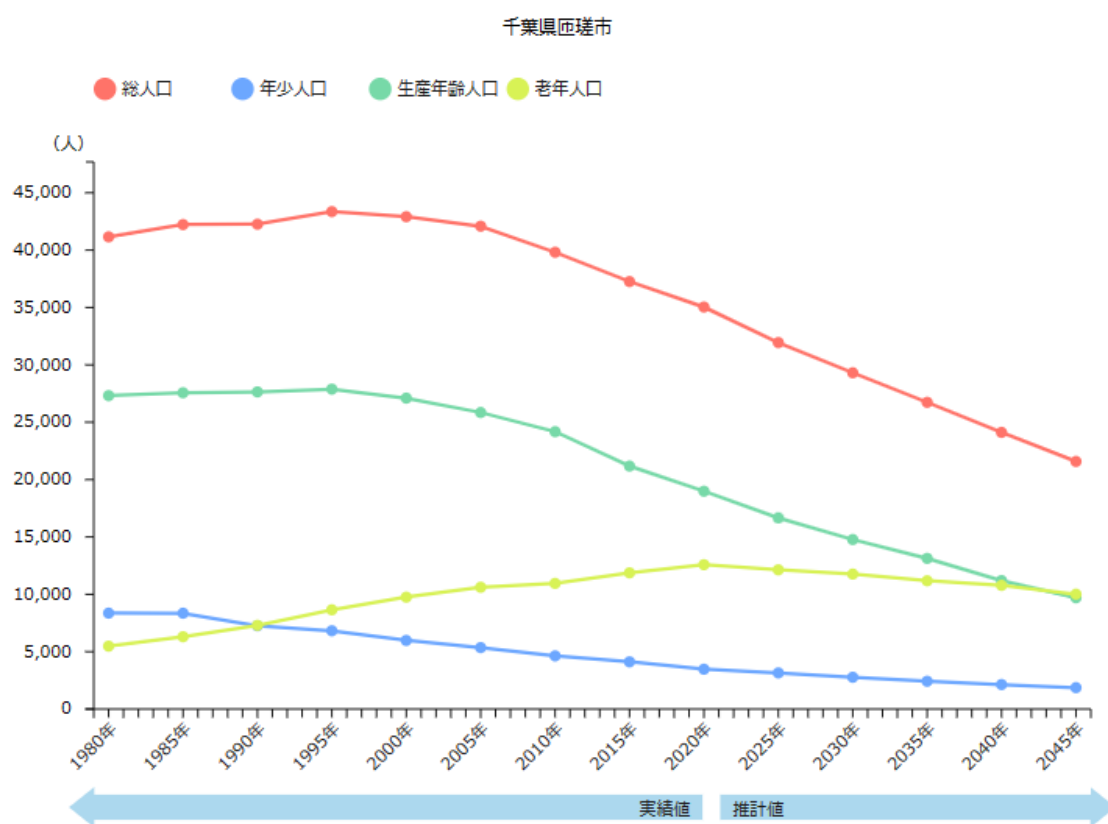
令和5年度 経営発達支援計画
地域経済動向調査

調査目的

当地域の産業・経済の現状を把握する事を目的とし、国が提供する RESAS を活用した地域経済動向分析を行う。

調査結果

1. 人口推移（総人口・年代別人口がどのように推移するか把握します）



匝瑳市は1995年の総人口43,357人をピークに人口減少が進んでおり、ピーク時の各年別の内訳は年少人口6,822人（15.73%）、生産年齢人口27,883人（64.31%）、老年人口8,652人（19.96%）であった。直近の実績値となる2020年では総人口35,040人となっており、その内訳は年少人口3,471人（9.91%）、生産年齢人口18,984人（54.18%）、老年人口12,581人（35.90%）となっています。

1995年と2020年を比較しただけでも人口減少が顕著に表れている事が分かり、特に高齢者の割合が全体の4割に迫る状況となっており、約20年後の2045年には総人口21,581人と推測からも分かるように、ピーク時の半分になる事が予測されています。

2. 一次産業（農業産出額を用いて、地域の農業の全体像を把握します）

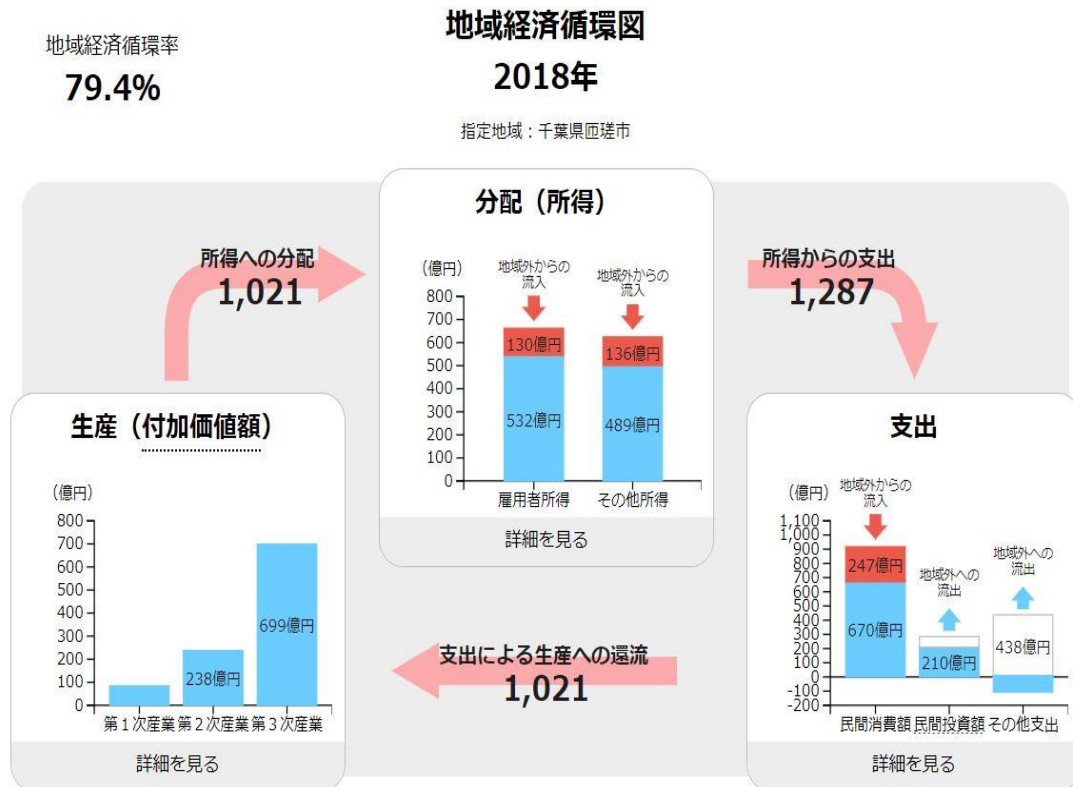
匝瑳市の市町村別農業産出額は推計 1,244 千万円となっており、上位から米と野菜が共に 242 千万円、次点に 216 千万とおり、上位 3 業種で全体の半分以上を担っています。

3. 二次産業・三次産業（地域の産業の全体像を把握します）

匝瑳市の企業数 1,345 社に対して、卸売・小売業 350 社、建設業 263 社、生活関連サービス業・娯楽業 160 社が上位を占めており、従業員数は製造業 3,747 人、医療・福祉業 2,113 人、卸売・小売業 2,095 人が上位となっています。

売上高に注目すると、製造業 85,874 百万円、卸売・小売業 48,997 百万円、建設業 7,125 百万円が上位を占めています。

市内の産業を見ると、卸売・小売業が一番多く、次いで建設業、生活関連サービス業・娯楽業となっている。従業員数の指標で見れば、製造業が一番多くなっており、次いで医療・福祉業と卸売・小売業が続いています。



前年度、地域経済循環図の分配（所得）のグラフから、所得が地域外から流入している事から通勤先が匝瑳地区外である可能性が高い事が推測でき、滞在人口時間推移からも匝瑳市地区が近隣市町村のベッドタウン的役割であるという事が分かりました。

また、グラフから民間消費額が地域外からの流入が多くなっていますが、休日の滞在

人口時間推移と生産のグラフと比較してみた場合、第3次産業内の観光業等によるものかどうかは調査が必要だった事から観光事業にスポットを当てて深堀を行っていきま

4. 日本人観光客

滞在人口時間推移からも匝瑳市地区が近隣市町村のベッドタウン的役割であるという事が分かってきましたが、民間消費額が地域外からの流入が多くなっている事から観光業等によるものかどうか調査を進めていました。

しかし、匝瑳市内の宿泊人口を把握するデータが存在していないため、これ以上の調査が困難となりました。この要因として考えられるのは、市内の宿泊施設が少ないという地域的な要因が考えられます。

日帰り観光によるものかどうかは詳しく調査をする必要があります。

5. 匝瑳市の今後

所得が地域外から流入している事から通勤先が匝瑳地区外である可能性が高い事が分かっておりましたが、宿泊施設が少ないため観光事業による可能性が低い事からも匝瑳市地区が近隣市町村のベッドタウンである事が強く裏付けられました。

少子高齢化が進み、また、民間投資額が地域外に流出しておりますが、銚子連絡道路の延伸工事によるインフラ整備が進み、2024年3月31日には横須賀地区まで開通します。今後も延伸工事が順次進み、それに伴う新規企業流入や観光客の流入などが期待されております。

本年度に関しては新規創業者の数が例年よりも多かった事から、長引く新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却が見て取れ、市内における創業を強化する事で地域活性化につながる事が期待できます。